

2025年12月4日

## 産学連携イベント「第2回 かながわ発 技術シーズ発表会」の開催について

横浜フィナンシャルグループの横浜銀行(代表取締役頭取 片岡 達也)は、2026年2月5日(木)に、かながわ産学公連携推進協議会(会長 四方 順司、以下「同協議会」)および神奈川産業振興センター(理事長 武井 政二、以下「同センター」)と共同で、産学連携イベント「第2回 かながわ発 技術シーズ発表会」(以下「本発表会」)を開催しますので、お知らせします。

当行は、2015年より産学連携支援機関として同協議会に参画し、地域企業の課題解決やイノベーションの促進に向けた多様な取り組みをおこなっています。

本発表会では、同協議会に参画する県内11大学および神奈川県立産業技術総合研究所が保有する技術シーズを地域企業に紹介し、企業の新製品開発や技術課題の解決を支援します。大学の研究者等によるプレゼンテーションを通じて事業高度化につながる新技術の探索を促進するとともに、名刺交換会や個別相談会を通じて大学とのネットワーク構築の機会を提供します。なお、本発表会は、同センターの協力のもと、「テクニカルショウヨコハマ2026」(※)のセミナープログラムの1つとして開催されます。

横浜銀行は今後も、産学連携活動を通じて地方創生に取り組み、地域経済の持続的な発展に貢献していきます。

(※)「テクニカルショウヨコハマ2026」とは、2026年2月4日(水)～6日(金)の期間、「時代をひらく新たな技術」をテーマにパシフィコ横浜にて開催される、首都圏最大級の工業技術・製品に関する総合見本市です。同センター等が主催します。

### 【本発表会の概要】

名 称	第2回 かながわ発 技術シーズ発表会
日 時	2026年2月5日(木)13:30～17:00
会 場	パシフィコ横浜 展示ホール 2階会議室 E24／E25 (横浜市西区みなとみらい1-1-1)
内 容	① 大学・研究機関の関係者によるプレゼンテーション(12件) ② 名刺交換会・個別相談会 ③ 技術シーズのブース展示
登 壇 大 学 ・ 機 関	青山学院大学・神奈川工科大学・神奈川大学・関東学院大学・湘南工科大学・東海大学・ 東京科学大学・東京都市大学・東京農業大学・日本大学・横浜国立大学・ 神奈川県立産業技術総合研究所
対 象	大学・研究機関が保有する技術シーズの活用や産学連携コーディネーターとの連携に関心のある企業
参 加 費	無料
主 催	かながわ産学公連携推進協議会、神奈川産業振興センター、横浜銀行

※申込方法などの詳細は別紙をご参照ください。

以 上

第2回

横浜銀行・かながわ産学公連携推進協議会・神奈川産業振興センター主催

# かながわ発 技術シーズ発表会

神奈川県内の大学や研究機関が有する技術シーズをご紹介  
各シーズとのマッチングを通じて新製品開発や技術課題解決を支援します

2026年2月5日(木)  
13:30~17:00 [開場 13:00]

パシフィコ横浜展示ホール  
2階会議室E24/E25

横浜市西区みなとみらい1丁目1-1

ACCESS▶



▼ 内容 ▼

各大学一押しの技術シーズが集結！

- 県内大学や研究機関の研究者・産学連携コーディネーターによるプレゼンテーション
- 技術シーズの展示、名刺交換＆個別相談会

\*個別相談会をご希望の場合は申込時に予約申請が必要となります。

▼ イベントスケジュール ▼

13:30 開会挨拶	15:30 第2部 プrezentation
13:40 第1部 プrezentation	16:40 閉会挨拶
15:00 休憩(ブース見学・名刺交換)	17:00 終了

▼ 登壇大学・研究機関 ▼



\*大学は五十音順

▼ 対象 ▼ 大学や研究機関が保有する技術シーズの活用や  
産学連携コーディネーターとの繋がりに関心のある企業

▼ 申込 ▼ ●申込期限:2026年2月4日(水)17:00 会場定員:80人

(事前申込制)

●下記申込フォームよりご登録ください

<https://info.boy.co.jp/n/form/calb/TwuyDJRZXk3pGfraU7tXa>

\*個別相談会をご希望の場合は、申込時に事前申請をおこなってください！

ENTRY▶



(個人情報の取り扱いに関するご案内) ご提出いただいた個人情報は、本イベントのご連絡、実施、その他の手続きに利用するほか、主催者の各種サービスのご案内に利用する場合がありますのでご了承ください。なお、ご本人の同意を得ることなく主催者以外の第三者に提供することはありません。

## 個別相談会についての留意事項

- 個別相談会は事前予約を申込フォームより受け付いたしますが、申込の時点では面談をお約束するものではありませんのでご了承ください。面談の可否および時間帯については、大学関係者と協議のうえ決定し、担当者より後日連絡させていただきます。
- 研究者のスケジュールの都合上、コーディネーターが対応する場合もあります。
- 当日、会場でも個別相談会を受付いたしますが、予約されている方が優先となりますので、ご了承ください。

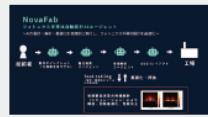
## 研究・技術シーズ詳細



13:40～13:50

### A | マルチエージェント統合による 設計・創造プラットフォーム技術

関東学院大学 理工学部 准教授 石坂雄平



AI基盤に関する基礎研究の成果をもとに開発した「AIマルチエージェント連携システム」について発表する。半導体設計領域では、設計仕様を自然言語で解釈するAIが論文データを分析し、数値解析シミュレーション(FEM/FDTD)を自動実行のうえ、製造用レイアウト(GDSII)を設計することができる。本研究をもとに「株式会社Scimit」を起業し、企業との共同研究やPoCを実施するパートナー企業を探索する。

■応用イメージ：フォトニクス半導体設計の自動化や、AI基盤を活用して社内教育・ナレッジ共有の体制構築や業務効率化を目指す企業など



### 在宅医療でQOL向上を目指す簡便な 在宅用呼吸機能計測システムなど

13:50～14:05

神奈川工科大学 健康医療科学部 臨床工学科 特任教授 深澤伸慈／教授 金大永／研究員 根津竹哉



患者に負担が少なく、従来より簡便な在宅用呼吸機能計測システムを開発した。胸部の3軸加速度計による波形解析と吸気開始時の口腔内圧を計測することにより、呼吸リハビリテーションや在宅での医療の支援を行うものである。また、医療従事者の学習や技術習得を支援するベースメーカ外来用医療シミュレータや、エコーガイドを模擬した穿刺シミュレータについても紹介する。

■応用イメージ：医療機器等の精密機器製造業との設計・製作・販売面での連携、医療・福祉業界とのテストマーケティング面での連携など

14:05～14:15

### 重度障害者のための 表意用個別適応型複合センサシステム



湘南工科大学 工学部 電気電子工学科 准教授 森貴彦

腕部や指先のわずかな動きを検知可能な複合センサを用いて、50音表意や基本的有意思伝達を可能とするシステムを開発した。微小な残存運動を加速度センサ・ひずみゲージなど複数のセンサで捉える「複合センサ統合アプローチ」と個別適応型治具と組み合わせることで、視線や四肢の随意運動が困難なかた向けに新たな表意の可能性を提供する。医療・福祉業界などへの応用が期待されている。

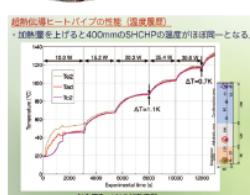
■応用イメージ：医療・福祉業界の福祉用具、ゲーム機やPC用コントローラなどへの活用など



### 世界初！世界最高の熱輸送性能を達成した 超熱伝導ヒートパイプ

14:15～14:25

青山学院大学 リエゾンセンター URA 馬場裕二



熱流体制御の観点から、あらゆる発熱体から効果的に熱を移動させて排熱・冷却する「自励振動型ヒートパイプ(PHP)」の研究について発表する。PHP内に内封する作動流体として、特異な表面張力挙動を有するSelf-rewetting溶液(自己浸潤液)を活用することにより、世界最高レベルの熱輸送性能を実現する。あらゆる分野・製品への放熱用デバイスとしての展開が期待できる。技術支援を希望する事業者を探索する。

■応用イメージ：バッテリー急速充電時の発熱抑制、データセンター用GPUの空冷放熱、携帯電話やPCなどの高密度発熱体の放熱

14:25～14:45

### 半導体微細加工技術を利用した 小型デバイスの開発とロボットへの実装



日本大学 理工学部 精密機械工学科 教授 齊藤 健

微小な電子回路・機械を作製する技術を組み合わせてミリメートルサイズの「人工生物」を実現する研究や、電気的な信号を生成する電子回路を作製しコンピュータプログラムが不要な「人工脳」に関する研究について発表する。微小な電気要素および機械要素を組み合わせることで、世界最小の人工昆虫の実現を目指している。本技術の連携・共同研究先を探索している。



■応用イメージ：超小型モータ(厚さ0.5mm・2mm角サイズ)の活用を検討できる製造業、医療用ロボットの開発を目指す医療・福祉関連企業との共同研究など



- ①「誰でも、簡単に、正確にロボットや乗り物を操縦できる独自・汎用・革新的なコントローラー」
- ②「ラボオンチップ上で電解共役流体により稼働するマイクロポンプ(シリジンポンプ・蠕動ポンプ開発)による超小型送液システム」



14:45～15:00

### 東京科学大学 产学共創機構 技術プロモーション室 URA 佐々木修

①従来のジョイスティックなどに代替する操作が容易で手元と対象物が直感的に連携する「革新的な(最大) 6次元操作に対応するコントローラー」の研究及び②化学実験をチップ上のマイクロ流路で行うラボオンチップ分野において、電解共役流体(ECF)液中に直流高電圧を印加することにより実現する「超小型送液システム」について発表する。

- 応用イメージ：①製造現場等の計器・重機の遠隔操作、スマート農業等への活用
- ②臓器の機能を再現する生体機能チップ、人体の生体システム全体を再現するヒューマンオンチップへの応用など

15:30～15:40



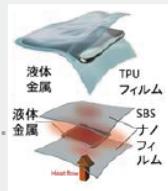
- ①「液体金属を利用した超柔軟なガスバリアフィルム・伝熱フィルム」
- ②「超軽量・高精度ホロノミック自走ロボット」



### 横浜国立大学 研究推進機構 教授 山本亮一

①信頼性や機能性を提供する液体金属を用いた革新的な新材料「伸縮自在で高ガスバリア性を示すフィルム」ならびに「高熱伝導性を持つ柔軟な伝熱フィルム」の研究及び②小型・超軽量・高分解能・X Y θ軸のホロノミック動作(任意軸回転、全方向直進動作)が可能な超高機能な手のひらサイズの小型自走ロボット技術について紹介する。本技術の活用・応用に関心ある企業を探索する。

- 応用イメージ：①次世代ウェアラブル機器やバッテリーの熱マネジメント
- ②ニッチな作業・精密な作業の自動化



- ①「確率モデルによる透明・公正な商材の価格最適化技術」
- ②「サービス業現場の問題解決のためのデータ分析とシステム最適化の融合技術」
- ③「介護支援ロボットのための環境理解及び物体把持制御技術」



15:40～15:55

### 神奈川大学 研究推進部 産学官連携課 URA 伊藤智啓



①過去データから需要を予想し、価格・受注を自動最適化することで利益最大化・需要平準化を目指す技術及び②AIによるデータ分析と数理最適化技術を融合し、業務の可視化・効率化を目指す技術及び③介護ロボット環境理解と把持制御を実現し、高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を目指す技術について発表する。

- 応用イメージ：来場者数予測とチケットの最適価格設定、食堂や観光イベントの従業員シフト最適化、食堂の食数予測と献立最適化、介護施設業務・家事の支援/代行など(サービス業、卸・小売業など)

15:55～16:05



### 「ペピーノ」の高糖度果実生産のためのリング処理技術の開発とトマトの土壤病害防除のための台木としての活用



### 東京農業大学 農学部 農学科 教授 高畑 健

ペピーノは南米原産のナス科の果菜類。日本では、1980年過ぎに栽培が開始されたが定着には至っていない。同大学では、あらゆる技術を駆使してブランド化や地域特産品化を目指す。今回、研究によって見出されたペピーノの魅力を紹介し、連携パートナーを探索する。

- 連携イメージ：ペピーノの栽培や活用に関心のある事業者



- ①「食品成分のケミカルバイオテクノロジー研究」
- ②「内航船用の最適航路情報を提供するウェザールーティング・サービス」
- ③「イベントカメラによる明・暗瞳孔法を用いた高速瞳孔追跡」



16:05～16:20

### 東海大学 総合科学技術研究所 教授 山田繁和



①食品由来の有効成分を有機化合物の新規な方法で合成し機能性食品等に利用する研究及び②船舶の指定航海における内航船の到着遅延リスクを考慮した燃料節約効果のある最適航路情報を提供するウェザーラーティング・サービスの紹介及び③能動的な光源制御によって生じる明・暗瞳孔の変化を非同期な観測技術により瞳孔検出を行うことで、高速(2000 Hz以上)・微細な眼球運動の計測を行う次世代の視線計測技術について発表する。

- 応用イメージ：①薬効効果のある化合物の合成支援、②港内輸送・漁業への応用、
- ③スマートグラスやインタラクティブな映像コンテンツへの実装など

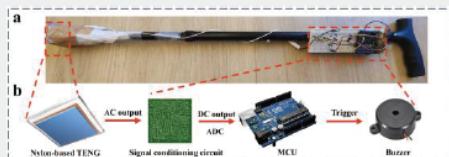


- ①「視覚障害者案内用の白杖および案内システム（スマート白杖）」  
②「回転子が回転磁界よりも高速で回転する電動機（高速モーター）」



16:20～16:30

## 東京都市大学 総合研究所 Research Administration Center・URA 石井宏明



①自己発電型で低成本・高機能なセンサとして屋内外で利用可能な道路の白線等との接触で発電・警告を行う「視覚障害者支援デバイス」及び②歯数と極数の特定組合せによる多極巻線においても高速回転が可能なモーターに関する技術の発表をおこなう。

■応用イメージ：上記技術を活用したい製造業、医療・福祉関連企業との連携など

16:30～16:40



- ①「可視光からテラヘルツ波までの光源とCNTフレキシブルセンサーを用いた非接触検査・計測システム」

- ②「自律的に学習・成長する現場向けエッジ生成AI」

## 神奈川県立産業技術総合研究所 研究開発部 科学技術コーディネーター 松本隆



①オンライン検査から高所や危険個所のリモート検査まで幅広く対応する対象物の構造・成分などを立体的に可視化させる技術及び②大型コンピュータやクラウドを使わずに、自律的に未学習データを学習し新たな知見や制御法を創生するAI技術について発表する。

- 応用イメージ：①土木・建築構造物・電気設備など社会インフラの検査を担う建設業  
②オンライン検査、製造現場へのAI導入を期待する製造業、医療・福祉現場で高齢者の行動支援のためにAI導入を検討する事業者など



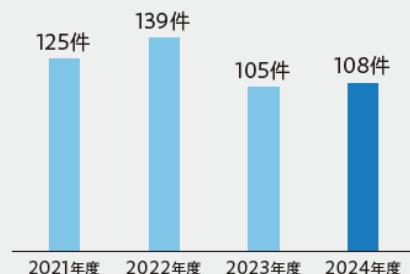
※登壇者・登壇時間などは変更となる場合があります

## 【参考】横浜銀行の产学連携の取り組みについて

横浜銀行では、産学官金の連携強化を通じた地域社会の課題解決に取り組んでいます。包括連携協定を締結する横浜国立大学、青山学院大学、昭和医科大学から、横浜銀行の従業員が「産学官金連携コーディネーター」の委嘱を受け、企業の課題解決に資する研究に取り組む大学と技術的な課題を有する法人企業のお客さまの橋渡し役を担うことにより、取引先の企業価値向上に向けた支援をおこないます。

また、地域金融機関を代表して、かながわ産学公連携推進協議会（通称：CUP-K）にも支援機関として参画することで、上記以外の大学との連携体制も整えています。

## 産学官金連携コーディネーターへの相談件数



法人のお客さまの商品・技術開発に関する課題解決に向けたソリューションを提供



主催：かながわ産学公連携推進協議会

KiP 公益財団法人  
神奈川産業振興センター

横浜銀行

本イベントに関する問合せ先

横浜銀行地域戦略統括部  
地域戦略・SDGs推進グループ(担当:畠)

045-225-2283(直通)  
shouta\_hata@hamagin.co.jp